街道を歩く

東街道:09今本町ー知立ー今岡町

[弥次・喜多]
猿渡川を渡って
"ハッはしの古跡をよむわれわれが
およばぬ恥をかきつばたなれ"
池鯉鮒宿にてぞうりを値切って買う

池鯉鮒宿　(鳴海宿へ2里30町))

池鯉鮒明神(知立神社)の池に鯉と鮒がいたので
その名がつけられたと言う。
宿の長さは12町37間、宿内で屈折、本町に本陣、
脇本陣、中町に問屋場、両町に旅籠茶屋が軒を
連ねていたと言う。宿は木綿市、山町で開かれる
馬市で賑わったという。馬市では農民、馬喰の他
ほかに遊女、くぐつ師、博徒らで活気づいたと言う
宿場であると同時に村高1158石余の付近最大の
農村地帯でもあった。
本陣、脇本陣、問屋場各1、旅籠35天保14年(1843)

無量寿寺　(臨済宗)
慶雲元年(704)豊田市駒場町に慶雲寺として創建
延喜2年(902)八橋山無量寿寺現在地に移る。
文化9年(1812)方巌和尚以後大いに栄え杜若池
庭園を煎茶式に改める。心字池を中心とした。
回遊庭園は杜若の咲く5月は賑わう。
境内には業平竹、一本薄、杜若姫供養塔がある
業平の愛人杜若姫 は業平の東下りの後を都より
追いここ八橋に着いた時には業平は立ったあと
でした。悲嘆のあまり近くの川に入水し亡くなったとか。

八橋伝説地
かっては逢妻川沿いにひろがる低地帯、杜若が
咲き乱れていた景勝地。
仁寿元年(851)在原業平が東下りの時この地に寄り
"から衣　きつつなれにし　妻しあれば
はるばるきぬる　たびをしぞおもふ"
とうたわれた。付近には業平塚、在原寺などある
業平の分骨納め塚を築く、
宝篋印塔が建つ

知立神社(三河二の宮)
祭神:ｳｶﾞﾔﾌｷｱｴｽﾞ尊、ﾀﾏﾖﾘﾋﾒ命ほか
蝮除け、安産、雨乞の神として崇敬
日本尊が東征の帰途、伊知里生命を
この地に留め祖霊を祀り仲哀天皇元年
に社殿が造営されたと言う。
鎌倉時代末期には正一位となる。
境内には国重文の多宝塔、芭蕉句碑等がある。
"不断たつ　池鯉鮒の宿の　木綿市"

知立城址
知立神社の神官であった永見氏が築城。
永見氏は平安時代末後白河院の北面の武士
保元、平治の乱に従軍、29代貞英まで続く。
桶狭間の合戦のときは今川方の武将が守備
していたが義元討ち死の報で敗走。信長方の
手に落ちる。天正年間に刈谷城主水野忠重が
御殿を建て、寛永年間に松平主殿守が増築
以後御殿は将軍家の宿泊所、休憩所となる。
元禄12年(1699)の地震で倒壊。

戦国時代になると永見氏は刈谷の水野氏に
臣従するようになり永見貞英の妹は水野信近
の妻になり、水野忠政の娘は貞英に嫁いで
"お万"を生む。お万は後に家康の側妾となる
お万は結城秀康を生む。

法蔵寺　(浄土宗)
加賀野井弥八郎の墓がる。関ヶ原合戦
の直前、弥八郎は石田三成の命を帯び
家康暗殺の目的で関東に向ったが志を
果たせず帰途、浜松城主堀尾帯刀に逢う。
堀尾に伴われ池鯉鮒宿杉屋に赴き刈谷
城主水野忠重と酒宴中、水野を斬り
堀尾にも斬りかかったが逆に斬られる。
加賀野井は本寺に葬られ、岡崎城主
田中吉政が墓を建てる。
境内には水野の付人2人が責任をとって
切腹した追腹塚がある。

小松寺　(井村祖風・徹堂の墓)
祖風は江戸に生まれ句会を通じて江戸詰
本多忠寛に仕え三河に下り、縁あって池鯉鮒宿
の山吹屋の養子になる。蕉門八世の門人として
知られる。徹堂は祖風の養子、書家で知られる。
地蔵堂の屋根は脇本陣の玄関移築、唐破。

池鯉鮒の馬市
安藤広重の浮世絵"東海道五十三次"で
"首夏馬市"と題して描かれている。
その昔池鯉鮒は木綿の集散地で運搬に
馬が使われたことから馬市が栄えたとか
毎年4/25―5/5に宿東の野で行われた。
明治になってから慈眼寺境内に移り馬
から牛に変わり昭和の初期まで続く。

吉田忠左衛門夫妻墓
忠左衛門は赤穂四十七士の一人、元禄15年
(1702)吉良邸討ち入りの時北の門の大将補佐役
を勤める。その妻りんは夫亡き後身を寄せていた。
娘婿の主君が刈谷に移封されたので一緒に移った。

りんは当寺で化導を受け後世夫の冥福を祈ることに
捧げたが半年後病没。生別の時形見にもらった生歯
と共に宝永年7年(1710)11月合葬された

祖風の墓

来迎寺一里塚